ODAPUS in Hong Kong

【はじめに】

私たちは、10 月 1 日から 31 日までの 1 カ月間、香港大学へ留学した。世界トップクラスの歯学教育に触れることで、自身の学習方法について見直すとともに、広い視野で将来について考えるきっかけとなった。

【香港について】

香港は中国の南東端に位置しており、1997 年 7 月 1 日から中華人民共和国の特別行政区となっている。[1)] 日本から飛行機で約 4 時間かかり、時差は 1 時間である。香港の公用語は中国語(広東語)であり、幼稚園時から英語学習が進められており、学生全員が英語を話すことができる。日本と比べて湿度が高い。10 月であるにも関わらず、日中の気温は平均約 32 度であった。台風の影響を受けることが多いが、地震は少ない。主要な公共交通機関は MTR とよばれる鉄道であり、香港全域をスムーズにアクセスできる。

【香港大学について】

1911 年に設立された香港大学は、教育と研究において国際的に最高水準の卓越性を追求し、長年にわたり学術研究の国際的最前線を走り続けている。10 の学部と 140 以上の学科、研究所・センターを擁し、幅広い学習プログラムと研究分野を提供している。世界中から約 3 万人の学部生と大学院生が入学し、4,000 人以上の多様な文化的背景を持つ教員および学術関連職員が在籍している。[2)]

【香港大学の歯学教育】

香港大学歯学部のキャンパスは、岡山大学の鹿田キャンパスと同様に本学とは別にあり、クリニックに併設されている。MTR(鉄道)の駅から徒歩 5 分程度とアクセス良好である。

香港大学歯学部は 6 年制で、PBL を主体とした授業が行われている。より深い理解の促進、知識の習得と維持、生涯学習の習慣、チームワークスキルを育むことを目的としており、優れた歯科医師に必要な資質の獲得に寄与している。岡山大学では、PBL の授業は数えるほどしかないが、香港大学では口腔形態学、生理学、薬理学などのあらゆる分野の学習を PBL で行っており、学生の主体性が非常に高い。

2 年生時で歯科治療の機器を用いた実習を始めている。3 年生時にはすでに患者さんを 5 人ほど受け持っているそうで、日本とのカリキュラムの違いが目立った。

【香港大学での授業】

座学や PBL チュートリアルに参加するだけでなく、直接修復の実習を見学したり、歯科放射線科のパノラマ撮影の実習を見学したりした。全て英語で授業が行われ、医療英語の学習はある程度必要ではあったが、図を用いての説明があったため、想定していたよりも内容が理解しやすかった。

<u>①保存修復学の実習</u>

実習では 2 年生のグループに参加し、模型を用いた第一大臼歯、第二小臼歯のコンポジットレジン修復を見学した。また、生徒同士でプラーク検出や唾液緩衝能検査の練習を行う様子を見学した。生徒同士の仲がよく、私たちにもかなり好意的に接してくれ、道具や作業内容について適宜説明してくれた。

<u>②PBL チュートリアル</u>

香港大学では基本的に PBL チュートリアルを通して学習を進めている。チュートリアルは 2 つの段階に分かれている。1 回目の授業で課題を課され、その課題について話し合う。話し合いで出た疑問点や、教員から指示された内容について調査し、発表スライドを作成する。2 回目の授業で作成したスライドを用いて各自調べてきた内容について発表しあうという流れであった。先生が質問し、生徒たちが疑問点に対し回答を述べ新たな疑問点についてディスカッションする様子は日本とは異なり、とても精力的で感銘を受けた。

<u>③歯科放射線学分野での実習</u>

香港大学歯科放射線科の　　先生の授業に参加すると同時に授業のお手伝いをした。先生は新潟大学ご出

身の歯科医師で、新潟大学に勤務された後、約 10 年間香港大学に在籍されている。ご専門の分野は顔面および頸部の CT 解剖、炎症性疾患、顎骨壊死である。実際の口腔内パノラマ写真をみて撮影方法の問題点について詳しく学び、学生に配布する評価スライドを作成した。例えば、ゴーストシャドウが見られる、歯がぼやけて映るなどの問題点があり、その要因について話し合った。撮影時に患者の姿勢がまっすぐでない、顎の位置が適切でないなど、様々な要因が考えられるということを学んだ。

【香港での生活】

宿泊先：学校まで MTR と徒歩で 20 分程度の場所にあるサービスアパートメントを借りた。光熱費や水道代など、全て込みで 1 人約 25 万円であった。シャワーやトイレが共用ではなく、キッチン、洗濯機付きの部屋、パーソナルスペースをとれることなどを考慮した結果、同じ地域で別の部屋を借りることになった。アパート内には、ベッドや机などの家具だけでなく食器や洗剤、ヘアドライヤーなどもあった。

現地の人との交流：先述のとおり、香港の公用語は英語と広東語であったが、香港人は広東語で話すことを好むようで、学生もよく広東語を話していた。お店では英語が通じないこともありとても驚いた。

学校は午前が 9 時、午後は 14 時に開始で、1 コマが 3 時間である。昼休憩が 2 時間あったため、学生や先生と学校周辺の飲食店に行ったり、デリバリーを頼んで学校内で食事したりした。学生が広東料理の店に案内してくれ、飲茶を楽しんだ。食事前に各自食器をお湯で洗ったが、香港で初の体験となり印象的であった。

学校が休みの日には、香港の代表的な観光地を訪れた。M⁺というミュージアムや、モンスターマンション、天壇大仏が有名で、学生が案内してくれ、歴史的な背景などを教えてもらった。また、観光地の中でも特に印象的だったのが、　　先生や大学院生と共に訪れたビクトリアピークだ。山頂からの夜景は絶景で、まさに「100 万ドルの夜景」だった。

【日本との違い】

階数表示が異なり、イギリス式が使用されている。地上の最初の階(日本では 1 階)は「G/F」、その上が「1/F」で、日本の地下 1 階は「LG/F」と表記される。

授業時に日本では 5 分前集合が基本であるが、香港では学生が授業に遅れて参加する様子も多々見られた。しかし、遅れてくることに対して特に注意される様子もなく、指定の時間前に集合することに対して日本ほど厳密ではないという文化の違いを体感した。

MTR(鉄道)内では飲食禁止というルールが徹底されており、見つかると罰金になる。香港の地形はもともと山を開拓してできたということもあり、傾斜が急である。建物を高くすることで生活スペースを確保しており、高層ビルが非常に多く見られた。このため日本と比べて部屋の大きさもかなり小さく、家賃も高い。自炊をする機会は日本ほどないようで、食事は基本的に外食である。ただし、健康意識は高く、早朝に公園で運動している人や公園内のコートでスポーツを行っている人をよく見かけた。

医療制度は日本とは全く異なる。日本は皆保険制度だが、香港では全額自己負担で、歯科治療にかかる費用は高額である。そのため、歯科医師の給与は日本と比較すると非常に高額であり、平均すると日本円で 2000 万円ほどになるそうだ。[3)]

〈謝辞〉

ODAPUS 派遣に際し、多くの方々にサポートしていただきました。派遣先決定から香港大学とのやり取り、ビザ申請など、　　先生、　　先生には大変お世話になりました。また、香港での生活面、授業面では先生、　　先生にご尽力いただきました。ここに感謝の意を表します。

〈参考文献〉

１）https://www.hketotyo.gov.hk/japan/jp/about-hongkong/　（2025/10/24 閲覧）
２）https://www.hr.hku.hk/career_opportunities/careers.html　（2025/11/05 閲覧）
３）https://dym.asia/media/hong_kong_healthcare/　（2025/11/16 閲覧）